

第6回検討会での主な意見

令和6年7月5日

研究開発局環境エネルギー課

第6回検討会での主な意見

- スーパーコンピュータ「富岳」は稼働から4年経過しているが、世界トップの性能を維持している。これは、計算内容に合わせて先進的な技術を導入したことによる。この経験を活かし、次期スパコンにおいても戦略的に目標を設定することが必要。具体的には、SPring-8- II の高輝度化を進めるとともに、デジタルツインによるシミュレーションを実現し研究開発に活用できるようにすることが必要。大型放射光やスパコンを論文作成のための装置ではなく、GDPの拡大に貢献するツールとして戦略を立てることが必要。
- 大学生や高専生に加え、他産業からの社会人の移籍も人材の供給源として重要。特にヨーロッパは社会人大学生の割合が高く、それを活用し他セクターからの人材の確保に取り組んでいる。必要であれば、日本も早期に対策を講じるべき。
- 経産省の予算ではカバーできていない1nmよりも先の研究について本検討会では議論すべき。また、経産省では議論されていない研究者の育成について本検討会で議論してほしい。